



「膝・足関節・足部の新しい  
神経-運動器協調訓練  
—proprioceptive exercise の実際—」

Claude HERVEOU・Laurent MESSEAN 著, 井原秀俊・中山彰一訳

従来、骨・関節の外傷や疾患の理学療法としては、関節可動域や筋力の訓練に加えて物理療法を併用することが多い。しかし、本書を一読するとはっとさせられ、一つの新しい治療手技を教授させられた思いである。この書の強調する proprioceptive exercise (神経-運動器協調訓練) は、日頃多少なりとも治療の中に含んで行っているのも事実であるが、このようにその必要性を論理的に解説し、骨や関節の解剖学や運動学に偏ることなく、統合的治療として神経-筋反射のコントロールの重要性を説き、具体的処方箋を体系的に示しているのは本書が初めてであろう。

日常動作やスポーツの中で、捻挫のような受傷機転は筋や関節の機能低下というよりも、それをコントロールしている神経-運動器の反射機能の低下にあることを切切と説き、我々の現治療法に鋭いメスを加えている。

本書の内容は総論と各論に大別され、総論の中では神経-運動器協調訓練とは何かを機能解剖や神経生理学などの観点から説明し、代表的疾患-捻挫の受傷機転から本治療法の意義を説き証している。各論は足部・足関節と膝関節に分かれている。歩行相での足部・足関節の機

能について図式化し、ついでその部位の他動運動、自動運動、各種不安定板を用いての協調訓練について、具体的实际的に豊富な写真で詳しく解説している。膝の章も同様である。

本書の最後に訳者の独自の治療法も掲載している。原著の説や手技を踏まえ補足すべきと考えられる手技を加え、本治療法をさらに充実させると共により体系的理学療法を確立させている。

本書が平易な文体で訳され、豊富な写真入りであるので理解しやすく、非常に実践的書であるのですぐ臨床に應用できる。

本書が運動器疾患のリハビリテーションに新しい息吹きを吹き込むと共に、主に整形外科領域の理学療法のテクニックに厚みを与えてくれるものと確信する。是非一読して頂きたい書である。

(B 5 判 104 頁 (写真多数) 2,800円 ㇔ 250円)

医歯薬出版 1985)

(兵庫県立加古川病院 理学療法士 藤林 英樹)